

## 特集 地域の取組と今後の方向

九州農政局管内における特産農作物関連6次産業化の  
取組と今後の方向

九州農政局生産経営流通部食品課課長補佐 小野 佳子

## 1 福岡県うきは市におけるなたね加工品の例

## ＜取組の概要＞

平成18年、福岡県浮羽町(現うきは市)において、農業者28名で土地利用型農業の集落営農組織「大春の里営



農組合」を設立し、地域農業の担い手として農作業の共同化等を通じて農業経営の向上に取り組んできた。

平成20年度から、「搾油用菜種(品種:ナナシキブ)」を作付けし、なたね油を製造販売している。22年度には、さらなる経営展開を図るため、法人化を行い、「農事組合法人大春の里」を設立した。

また、平成22年度にペレットたい肥製造装置を導入し、菜種の搾りかすを肥料として有効活用する取組も行っている。

## ＜取り組むに至った経緯＞

当初は米麦が中心だったが、新たな水田の裏作作付け品目として「なたね」に着目し、平成20年度からなたね油の製造・販売を開始した。

## ＜取組内容＞

これまで作付けがなかった農地に「なたね」を栽培。

100%国産のなたね油を販売するとともに搾油後の「油かす」は肥料として使用し、資源の有効利用を行っている。

今年度の収穫から、収穫用コンバインにバイオディーゼル燃料(各家庭からの廃食用油をリサイクル)を使用している。

## ＜取り組むにあたっての課題とそれの対応＞

「なたね」の栽培技術が確立されておらず、収量が不安定であったが、先進地視察、普及指導セン

ター等の助言により、栽培技術の向上を図っている。

また、収穫用機械を所有していなかったが、他の作物にも使用できる汎用コンバインを導入し、対応している。

## ＜行政からの支援内容＞

地域有機資源肥料化推進事業(ペレットたい肥製造装置の導入経費)(H22年度)

## ＜取組の効果＞

売上高の増加 50万円(H20)→200万円(H22)

栽培面積の増加 5 ha(H20)→5 ha(H22)

## ＜今後の展開方向＞

なたね油関連の商品開発・生産により商品アイテムの充実を図り、贈答用としての関東方面への販路拡大等、新たな販売ルートを構築することにより、有利販売を目指す。

バイオディーゼル燃料を普通型コンバイン、トラクターにも活用していく。

## 2 熊本県益城町におけるサツマイモ加工品の例

## ＜取組の概要＞

平成3年、益城町において、農業生産法人有限会社コウヤマを設立し、サツマイモに特化した生産



を行っている。地域に埋もれがちだったサツマイモにオリジナルの付加価値を付けた加工品の製造・販売を行い、生産・加工・販売の一貫体制を確立している。直売所の開設・輸出の開始、平成22年度には加工場の新設等、事業の拡大を図っている。

